

鉄道沿線エリアの活性化について ～池上線における取組～

小里 好臣¹・梶谷 俊夫²

¹正会員 東京急行電鉄株式会社 鉄道事業本部 (〒150-8533 東京都渋谷区桜丘町 31-2)
E-mail:yoshiomi.ori@tkk.tokyu.co.jp

²非会員 東京急行電鉄株式会社 鉄道事業本部 (〒150-8533 東京都渋谷区桜丘町 31-2)
E-mail:toshio.kajitani@tkk.tokyu.co.jp

日本は人口減少・超高齢社会が到来している。東京都区部においても高齢化は着実に進展しており、将来は人口が減少すると推計されている。人口減少や高齢化は、都市環境や地域活力の低下、税収減少等、地域に大きな影響をもたらす。鉄道事業者も、人口減少や鉄道の利用機会が少ない高齢者割合の増加は、鉄道利用や沿線施設利用の減少をもたらすため、危機感を抱いている。

このような背景から、行政、地元、鉄道事業者にとって、沿線居住者の維持や増加を目的に、沿線エリアの認知度向上や魅力度向上を図ることが、ますます重要となってきている。

本報告では、鉄道沿線エリアの活性化のため、開業から 90 年が経過している池上線（五反田駅～蒲田駅間）において、行政、地元、鉄道事業者等が連携して取り組んでいるハード・ソフトの取組を紹介する。

Key Words: railway lines, revitalization, Ikegami Line

1. 背景

日本は人口減少・超高齢社会が到来している。東京都区部においても高齢化は着実に進展しており、将来は人口が減少すると推計されている。人口減少や高齢化は、都市環境や地域活力の低下、税収減少等、地域に大きな影響をもたらす。鉄道事業者も、人口減少や鉄道の利用機会が少ない高齢者割合の増加は、鉄道利用や沿線施設利用の減少をもたらすため危機感を抱いている。このような背景から、行政、地元、鉄道事業者にとって沿線居住者の維持や増加を目的に、沿線エリアの認知度向上や魅力度向上を図ることがますます重要となってきている。

2. 目的

鉄道沿線エリアの活性化のため、開業から 90 年が経過している池上線（五反田駅～蒲田駅間）において、行政、地元、当社等が連携して取り組んでいるハード・ソフトの取組事例の報告を行い、今後の取組の一助とすることを本論文の目的とする。

3. 対象路線の概要

(1) 池上線概要

池上線は現在、五反田駅から蒲田駅の 15 駅、10.9 km を結ぶ路線である。1922 年に池上本門寺へ参拝客を運ぶ目的で、蒲田から池上の 1.8 km をつなぐ路線として始まり、1928 年に五反田駅まで全通した。現在蒲田駅は J R 京浜東北線、五反田駅は J R 山手線などに接続している。生活に密着した路線で、池上本門寺や洗足池など名所旧跡への交通手段にもなっている。



図-1 池上線路線図 (Google マップを基に作成)

(2) 路線イメージの現状把握

池上線の現状把握を行うため、当社で調査を実施した。(表-1 参照) 各調査結果を下記に示す。

表-1 池上線に関する調査

調査日	2016年5月	2017年5月
調査内容	池上線のイメージに関する調査	池上線の認知度に関する調査
調査方式(調査対象)	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査(沿線居住者と東京城西、城東、川崎エリア 20~49 歳引越し意向者(引越し先未定)) インタビュー調査(池上線沿線 20~50 代居住者) 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査(洗足池駅を中心に半径 30 キロ圏内居住の引越し意向者(引越し先未定)) 池上線居住者除く)

a) イメージに関する調査結果

池上線居住者は、「交通の便の良さ」「日常生活の利便さ(医療福祉、子育て、買い物)」「居住環境が静か」「治安が良い」などの評価が高いのに対し、沿線外居住者は認識されていない結果となった。

表-2 イメージに関する調査結果

(沿線居住者と沿線外居住者の評価の乖離が大きい項目)

イメージ	沿線居住者	沿線外居住者
公共交通機関が発達し移動が便利	42%	14%
医療・福祉機関が充実	23%	6%
子育て環境や行政サービスが充実	26%	9%
買い物など日常生活が便利	37%	18%
商店街が充実	45%	28%
居住環境が静か	37%	16%
治安が良い	41%	15%

また池上線沿線居住者へグループインタビューしたところ、表-3 に記載の事項が沿線の良さとして挙げられた。また、沿線への居住決定はそれほど積極的ではないが、実際に住むと非常に高い満足度を実感していることがわかった。一方、知り合いにその明確な理由やスポットを語れないといった状況があることも把握した。

表-3 池上線沿線の良さに関するインタビュー調査結果

・地元根付いた食や店がある
・ものづくりや手作りが盛んである
・人とのふれあいがある
・身近に自然や四季が感じられる

b) 認知度に関する調査結果

2017年5月に、池上線の中間地点の洗足池駅を中心とする 30km 圏内の池上線非居住者に対し、路線の認知度調査を実施した。そのアンケート調査によると、池上線の認知度は 54.3% と他路線に比べ認知度が低い結果となっていた。(表-4 参照)

表-4 路線認知度 (N=300)

認知率 (%)	路線
80以上	山手線, 京浜東北線
75~80	中央線, 丸ノ内線, 総武線, 小田急線, 日比谷線, 東横線, 大江戸線, 東海道本線, 半蔵門線, 京急線
70~75	有楽町線, 都営浅草線, 東西線, 田園都市線, 千代田線, 副都心線, 南北線, 三田線, 京王線, 都営新宿線, 西武新宿線
65~70	横須賀線, 井の頭線, 西武池袋線, 東武東上線,
60~65	京成線
55~60	東急目黒線, 東武伊勢崎線, 東急大井町線
50~55	東急池上線, 東急多摩川線
50未満	東急世田谷線

4. 取組の方針

(1) ブランド・コンセプト

前述のアンケート、インタビュー調査結果から、認知の向上とイメージの醸成を図ることを優先的に取り組む必要があると考えた。それにより、図-2 の様な好循環のサイクルが図られることを目指した。

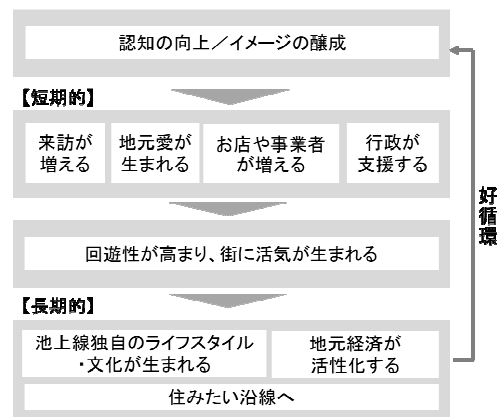


図-2 池上線に関する取組方針

池上線ならではの「心地よい」暮らしのイメージを「生活名所」というキーワードで発信することで、「生活名所=池上線」のイメージを確立させることとした。

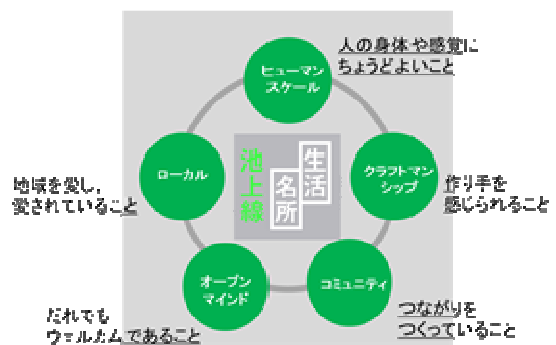


図-3 池上線のイメージ醸成

5. 推進体制

(1) プロジェクト推進体制

大田区や品川区と連携をはかり、「池上線ブランディングプロジェクトの活動・検討」を開始した。(図4 参照)

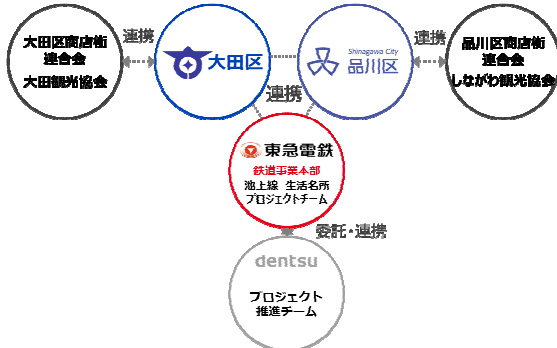


図-4 プロジェクト推進体制

(2) オープニングイベント

2017年9月6日には、大田区、品川区、当社の3者で、池上線ブランディングプロジェクトの活動・検討内容についてマスコミ向けに公表した。2部構成とし、第1部ではプロジェクトの目的、活動趣旨やゴールイメージ、初年度活動概要について紹介した後、地元住民の参加促進(サポーター募集)をお願いし、会場でのパネル展示、試食等実施等を行った。第2部では、池上線沿線のスポットを紹介するツアーを実施した。

6. 池上線フリー乗車デー

池上線の営業距離 10.9^{km}、「109」の日になみ 2017年10月9日(月・祝)の初電から終電間において、各駅にて「1日フリー乗車券」を配布し、池上線内が無料で乗り放題のイベントを実施した。また沿線各所ならびにグループ施設で特典・イベントを用意した。

他社事例では、島根県の一畑電鉄が、2012年4月7～8日に一畑グループ創立100周年、2016年11月20日に新型車両導入記念として実施しているが、首都圏では初の取組であった。(一畑電鉄は2017年11月19日にも運賃無料を実施)

1日フリー乗車券の配布枚数は190,764枚に上った。平均2.5回の乗車をしたと仮定すると569千人の利用があったと推計され、通常時と比べ371%の利用があった。

実施したイベントについても、多くの人が参加し、スタンプラリーは1,536名が抽選会場に来場した。洗足池ボートやかまた園屋上観覧車の無料特典等、全てのイベントが盛況であった。(表-5参照)



図-5 当日の様子(洗足池駅前)

表-5 主なイベント・特典の状況

イベント・特典	状況
洗足池ボート無料体験(560艇)	8:30受付開始 ⇒13:20受付終了
戸越銀座商店街「歩きコロツケカード」(300名)	10:00受付開始 ⇒11:00受付終了
「池上線レモンサワー」販売(500個)	14:00販売開始 ⇒16:00販売終了
大田・品川商店街スタンプラリー	1,536名が抽選会場に来場
かまたえん屋上観覧車無料体験(50名)	10:00受付開始 ⇒即終了

7. 駅施設改良・リニューアル

(1) 『木になるリニューアル』(戸越銀座駅)

戸越銀座駅は、全長約1.3kmにわたる関東有数の長さを誇る戸越銀座商店街があり、駅乗降客数は1日約2万人である。開業から約90年が経過しており、施設の老朽化が進み、2015年度から2016年度にかけて駅の改修工事を行うこととなった。

2014年実施の池上線の駅への感想を聞いたヒアリング結果によると

- ・古びてはいるがレトロな駅舎に愛着がある。このような雰囲気は残してほしい
- ・ベンチはお年寄りにも座りやすく、雰囲気が良い
- ・道路とホームとの高低差が少なく、ベビーカーが利用しやすい 等

のご意見があり、木の温もりや既存のかたちを活かしたリニューアルを推進していくこととした。

林野庁の「森林・林業再生基盤づくり交付金事業」を活用し、多摩産木材を使用してリニューアルを実施するとともに、行政、商店街、教育機関と連携し、映画、ドラマ、PVロケ地誘致や、近隣小学校等との木育イベント、街・行政・沿線が一緒になり、屋根建替え・廃材イベント・DIY等を実施する等、情報発信することで認知度を向上させた。(図-6,7参照)旗の台駅でも、2017年11月に『木になるリニューアル』に着手している。



図-6 木になるリニューアルポスター



図-7 戸越銀座駅

(2) 『駅改良工事』(池上駅)

池上駅は、駅乗降客数は1日約3万5千人で、池上線では、蒲田駅、五反田駅、旗の台駅に次いで多く、バス乗降客数も1日約5千人と多い。「住みたい」「訪れたい」魅力的なまちづくりの実現に向け、駅舎および駅ビルの開発計画に2017年6月から着手した。

現況では駅構内に踏切のある駅となっているが、鉄道駅総合改善事業(次世代ステーション創造事業)にて橋上駅舎化し、構内踏切解消を図るとともに、生活機能施設(保育園・クリニック等)を整備することとした。

商業計画としては、観光の魅力を高め、まちの発展を促す仕掛けとして、池上を体感する「仲見世」の整備、駅機能の魅力向上と、駅利用者の利便性向上につながる「区立池上図書館」の誘致を行った。(図-8,9参照)



図-8 池上駅完成イメージ



図-9 仲見世イメージ

8. 魅力的な電車の運行

2016年3月26日のダイヤ改正では、前章で挙げた「木になるリニューアル」とタイアップした「きになる電車」の運転を開始した。

車体の外装は、かつて池上線と旧目蒲線を走行していた旧3000系で使用していた紺と黄のツートンカラーを再現したフルラッピングとし、現行のコーポレートマークに代えてかつて使用していた英文字の略称「T.K.K」を車体の下部に表示した。また客室の内装は、レトロ・モダンな外観とやさしい雰囲気が感じられる木目調とし、木製の吊手・スリーブに変更等している。



図-10 車内状況(写真)

9. まとめ

行政・企業、地元商店・街、鉄道会社の三者で連携することで、上述したとおり、沿線を活性化する取組を実施した。

沿線エリアの活性化は三者だけでなく、社会全般にとっても望ましいことであり、このような取組が進むことが今後は期待されるであろう。

(2018.4.27 受付)